ホテルでの犯罪被害にご注意を

２０１２年１２月

在ベトナム日本国大使館

　海外において、日本人旅行者・出張者等が宿泊先ホテルで犯罪被害に遭うケースがあります。そのような犯罪被害に遭わないよう、以下の点を参考にしてください。

　**特に、最近、ハノイ市内で、ホテル客室内、アパート個室内等に侵入され、強盗等の被害に遭うケースが報告されていますので、ご注意ください。**

１　ホテルでの犯罪被害

よくあるケースとしましては、ホテルのロビーやカフェ等で一瞬荷物から目を離したすきに置き引きに遭うケースのほか、中には、ホテルの客室に侵入され、金品を盗まれるケースも報告されています。このような客室での盗難被害事案では、たとえば、次のような類型があります。

（１）ホテルの従業員を装ってドアをノックし、ドアを開けた一瞬の隙に無理やり侵入され、ガムテープ等で体を縛るなど身体の自由を奪われ、その間に金品を盗まれる。

（２）ドアをロックしていたにもかかわらず、深夜睡眠中に部屋に侵入され、寝ている隙に金品を盗まれる。

２　一般的防犯対策

　　置き引きや客室侵入盗の被害に遭わないように、次のような対策が必要です。

（１）なるべく貴重品を持ち歩かない。

（２）荷物を常時身体に装着するか、荷物から目を離さない。

（３）セキュリティのしっかりした信用度の高いホテルを選ぶようにする。

（４）客室内ではむやみに訪ねてくる他者を信用せず、ドアを開ける前に必ずドアスコープからの確認・用件確認を行う。不審に思った場合は、ドアを開けずに直ちにフロントに通報する。また、ドアを開ける場合でも、必ずドアチェーンを掛けておく。

３　その他

（１）自身では十分に気をつけていたつもりでも、不幸にも被害に遭ってしまうケースもあります。ドアチェーンを掛けていても、チェーンを切られ無理やり侵入されるケースや、ホテルの従業員が犯人（または共犯者）である場合などもあるからです。そのためにも、ホテルの選択は慎重に行うことをお勧めします。

（２）無理やり客室に侵入されたり、睡眠中に侵入され、目が覚めて犯人に気づいた場合などは、下手に抵抗すると、犯人の攻撃を受け、重傷を負ったり、最悪の場合命を落とすことにもなりかねませんので、まず自身の身の安全を確保することを優先してください。

(了)